

## 東日本大震災記録誌発行にあたって

東日本大震災によりお亡くなりになられた方々に、改めて哀悼の意を表しますとともに、被害にあわれました皆様に心からお見舞い申し上げます。

平成二十三年三月十一日午後二時四十六分、宮城県牡鹿半島の東南東沖一三〇kmの海底を震源とするマグニチュード九・〇の東北地方太平洋沖地震が発生しました。後に「東日本大震災」と命名されたこの大地震は、山元町に「震度六強」の激震と一〇m以上の大津波を襲来させ、町民の尊い生命と多くの建物、そして、公共用施設やライフラインが壊滅的な被害を受けました。また、約二五〇〇世帯が不自由な避難生活を余儀なくされました。

地震発生後、町では速やかに町災害対策本部を設置し、被災された皆様方の救護を最優先に災害救助の諸施策に全力を傾注して参りました。町民の安全・安心を確保することは、自治体の基本的な責務でありますが、かつて誰もを経験したことのない災害であったため、全国から数々の御支援を受け対応して参りました。

この間、被災者の救助・保護、捜索活動に御支援いただいた自衛隊、警察、消防機関、消防団、そして、全国の自治体、また、救援救助・炊き出し・救援物資の提供などに御尽力いただいた全国各地の諸団体、個人、企業、ボランティアなど全ての皆様に対しまして、改めて本誌をお借りして心より厚く御礼申し上げます。

これからは、町民の皆様の身を粉にした頑張り、企業の奮闘、国内はもとより世界中からの温かい御支援と励まし、この厳しい試練の中で生まれ育まれた絆、人が人を思いやる強く固い心、これらを大切にしてこれからの困難を克服して参りたいと考えております。

本誌は、本町の被害状況や災害対応、さらには復旧・復興に向けた取り組みなどについて、記憶を風化させることなく、今後の教訓として後世に残すため、発刊いたしました。限られた紙面ではありますが、本誌が、今後の防災対策の一助となれば幸いです。

結びに、本誌の編集にあたりご協力いただきました関係各位に心から御礼申し上げます。

平成二十五年三月 山元町長 齋藤 俊夫